

令和3年度中学校武道授業（柔道）指導法研究事業



濱岡睦月研究者による教具「投げ技マイスター」の紹介映像

令和3年度中学校武道授業（柔道）指導法研究事業〔主催＝日本武道館・全日本柔道連盟・日本武道協議会、後援＝スポーツ庁〕は、令和3年6月12日（土）、全国の研究者11名が参加して、オンライン会議システムによる方法で実施された。当初は実技を交えて2泊3日の日程で実施予定だったが、コロナ禍による緊急事態宣言を受けて、前年度同様、1日のみのオンライン形式での開催となった。

今回は、10月に開催予定の「第12回全国中学校（教科）柔道指導者研修会」に向けて、安全かつ効果的な指導内容や指導上での留意事項などを明確にすることを目的に、指導計画例・指導案の発表と研究協議が行われた。

◇ ◇

開講式では、高橋進全日本柔道連盟教育普及・MIND委員会委員長、吉川英夫日本武道館理事・事務局長が、それぞれ主催者挨拶を述べた。続いて、全日本柔道連盟参事の田中裕之研究者から全国研修会の概要説明があり、全国研修会で実技講師を担当する研究者に対し、「受講生に実りある研修会とするため、①授業のねらいとなる評価規準、②ねらいを達成するための具体的な指導内容・方法、③運動が苦手な生徒などへの段階的、多様な指導

の工夫、④具体的な評価基準、以上について明確に示していただきたい」と要望があった。

続いて、高橋健司研究者の進行の下、全国研修会で実施する実技講習の8科目（①基本動作②受け身の基礎③受け身の応用④投げ技・膝車⑤投げ技・体落し⑥投げ技・大腰⑦固め技の基礎⑧固め技の応用）について、担当する7名の研究者から指導計画例・指導案の発表があり、その指導内容について全研究者で研究協議と留意事項の確認が行われた。

今回発表した研究者は全員が中学校で柔道授業を実践している現場の教員であり、山根友樹研究者によるジグソー法を用いた「固め技」の逃れ方の学習方法や、濱岡睦月研究者による教具「投げ技マイスター」を活用した「大腰」の体さばきの指導方法など、各研究者が常日頃から工夫している指導方法に基づき、柔道が専門でない教員でも授業の現場で導入しやすい指導方法が提示された。それに対し、講道館道場指導部の向井幹博研究者による専門的な視点からのアドバイスなど、全研究者による活発な意見交換が行われた。

最後に田中研究者、高橋進研究者が講評を述べ、全日本柔道連盟指導者養成委員会委員長の木村昌彦研究者が全体総括して終了した。